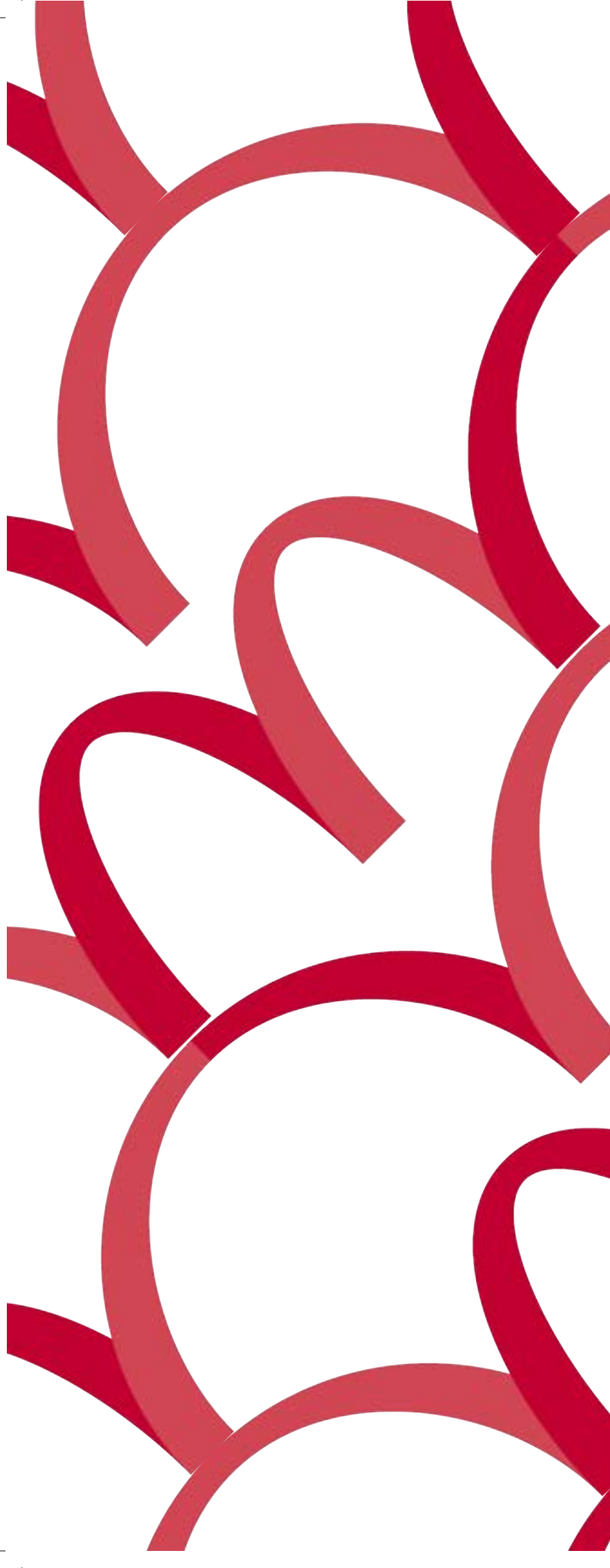




GUIDEBOOK 2025-2026

教育学科

CONTENTS

- 01 教育学科について
- 02 教育学科ってどんなところ？
- 03 在学生インタビュー 教育学科の学びと大学生活
- 05 教育学科の4年間
- 06 教育学科で受けられる多様な授業
- 07 教育学科から世界とつながる
- 08 教育学科の先生たち
- 09 教員インタビュー
ひとびとは教育についてどのようにかんがえてきたのだろうか？
- 10 教育学を学ぶ・研究する
- 11 教師になる——教職課程の学び
- 12 教員採用試験合格率
- 13 卒業後の進路
- 13 さまざまな分野で活躍する卒業生

教育学科について

教育学科は、生涯にわたる人間の成長を教育学の幅広い基礎知識と深い専門知識に基づいて理解し、教育に関わる実践と諸問題の解決方法を複眼的な視点から探究する学科です。

そのうえで、教育コミュニケーションという側面から、多様な他者と協働し教育を核とした既存社会の変革と持続可能な社会の創造を主体的に推進できる人を育てていくことを目指しています。

✓ 幅広い学び

教育学科には、様々な専門分野の先生が所属しているため、幅広い視野から「教育」について考えることができます。先生方との距離も近く、たくさん質問して学びを深められます。

✓ アットホームな学科

アットホームな教育学科！過去・現在・未来の教育に関して学生同士で意見を交わすのはとても楽しい！仲間とともに切磋琢磨しながら、大きく成長できます。先生方は悩みを親身に聞いてくださり、安心して学生生活を送ることができます。

✓ 教員を目指す

教育学科は、教員を目指す学生が多く、学生同士仲が良い学科です。1年次から学校現場に入って実践的な学びを得ることができます。また、教科教育法の授業では、学生が教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行います。

✓ コミュニケーション能力を磨く

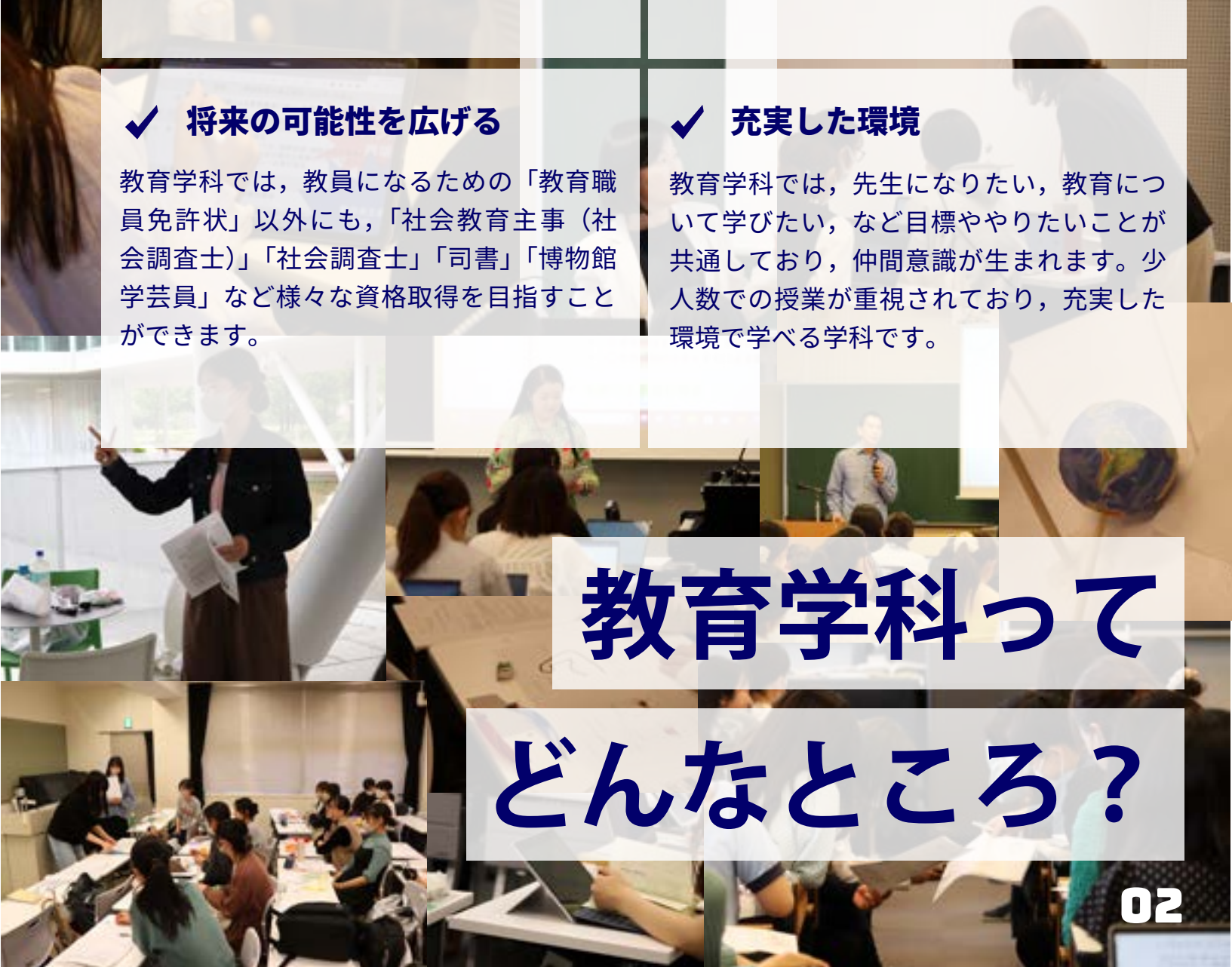
教育学科の授業では、グループワークやディスカッションが多く取り入れられています。楽しさだけでなく、協調性やコミュニケーション能力を磨くことができます。

✓ 将来の可能性を広げる

教育学科では、教員になるための「教育職員免許状」以外にも、「社会教育主事（社会調査士）」「社会調査士」「司書」「博物館学芸員」など様々な資格取得を目指すことができます。

✓ 充実した環境

教育学科では、先生になりたい、教育について学びたい、など目標ややりたいことが共通しており、仲間意識が生まれます。少人数での授業が重視されており、充実した環境で学べる学科です。



教育学科って どんなところ？



在学生に
聞いてみた

教育学科の学びと大学生活

桑嶋 晋平（教育学科教員） 今日は、教育学科での学びや、大学生活について伺ってみようと思ひまして、教育学科の学生3名に集まいただきました。よろしくお願いします。早速質問なのですが、**大学での学びってどんな感じでしょうか？高校までの勉強との違いって感じていますか？**

田中 優衣（教育学科 3 年） そうですね、大学は講義に加えて実習やフィールドワークもあるので、身をもって学ぶことができるということを感じています。

村石 貴咲（教育学科 3 年） いろいろな授業のなかから自分で選んで履修していくので、最初はすこし戸惑っていました。けれども、自分自身の興味があることを選んで、授業をとっていくので、いろいろなことを学べるという感じがします。

八木 杏（教育学科 3 年） そうそう、いろいろ選べる。

桑嶋 なるほど。どんな授業をとっていますか？

田中 わたしは社会科の免許を取ろうとしているので、もっと歴史に関する知識を深めたいと思って、歴史系の授業を履修しています。

村石 わたしは、もともと美術が好きだったというのもあって、教養科目で美術史の授業をとっています。

桑嶋 女子大学で女子だけの環境というのは、どんな感じですか？

田中 共学に行っている子からは、ギスギスしているんじゃない、と言われることもあるんですけど、実際にはそんなことはなくて、すごのびのびしているように思います。特に教育学科の子は優しく、なにかと声をかけてくれる子も多いですし。

八木 自由な雰囲気があるなあ、と思っています。「この子たちとずっといる」とか「ずっと特定の誰かとべったり」というよりも、たまたま授業で近くなった子といたりとか、ひとりでいたりとかすることが多いです。

田中 周りの目を気にしないで、のびのびとしていられる、というのは女子大ならではのよう思ひます。

桑嶋 教育学科は人間関係という面では気をつかわなくてよい雰囲気があるかもしれませんね。

八木 教育学科は目標をもってきている子が多くて、それで気にならないというか。それぞれ目標があって、授業では一緒に取り組んで仲良くなるんですけど、それぞれが目標に向かって取り組んでいて、高め合っているのだと思います。

八木 それで、人間関係が閉じてるという感じがしないんだと思います。

田中 それぞれが目標を持っている、というのを共有しているので仲良くなりやすい、というのはあるように思います。

桑嶋 教員採用試験に向けては、どんなふう to 勉強に取り組んでいますか？

八木 わたしは、大学で開いている教員採用試験の対策講座に参加しています。面接や小論文の対策もあって、とてもためになっています。また、資格教育課程指導室や教職総合センターで、教員採用試験に関わる相談が気軽にできるので、とても勉強がやりやすい環境だと思っています。

田中 そうそう、学校現場での経験がある先生が相談にのってくださるので、悩んだり困ったりしたとき具体的なアドバイスをもらえます。

桑嶋 教育学科には、研究者だけでなく、小学校や中学校で先生をされていて、校長をつとめられていた方や、教育委員会で活躍されていた先生もいらっしゃいますからね。

田中 授業で模擬授業をやることも、とても役に立っています。ある授業で模擬授業をやったのですが、授業自体は失敗したなあ、と落ち込んでいました。ですが、そのあとに先生から事細かなフィードバックをもらって、どこをなおしたらいいのかが明確になって、とても勉強になったと思っています。

桑嶋 教育学科では、サークル活動や部活動をしているひとは多いのでしょうか？

田中 わたしの周辺では多いです。大学内のサークルはもちろん、インカレでいろんな大学の子と仲良くなっている子もいます。教育学科では、サークル活動のほかにアルバイトして、充実した生活を送っている子が多いように思います。

村石 わたしは、JWU アンバサダー（注記：日本女子大学の魅力や特徴を「等身大の声」として幅広い世代に発信する学生組織）というのをやっています。学園祭のときは、企画を提案して、高校生で遊びにきてくれた子の相談にのったり、話したりしました。

桑嶋 村石さんは教員免許を取る予定はないそうですが、教育学科の中で肩身が狭いといったことはないでしょうか？

村石 わたしは教員免許を取るかわりに、社会教育主事と社会調査士の資格を取ろうとしています。それから、異文化相互理解実地研究に参加して、ベトナムの学校を訪問したり、現地の方たちと交流したりしたんですが、教員免許を取らなくてもウェルカムな感じでしたし、肩身が狭いと感じたことはないです。教職課程の授業を履修する必要がない分、いろいろな授業を自分で選んで取ることができるのも楽しいです。

田中 教職課程の授業を履修していても、教職に就かない、という子もいるので、肩身が狭いといったことはないように思います。

八木 教員にはならないけれど、教育関係の仕事に就きたい、という子もけっこういます。教職課程の授業を履修しているかどうかはあまり関係なく、日々を過ごしていけるとと思います。



教育学科の4年間

1 年次 「教育学基礎演習」で教育学の基礎を学ぶ



少人数制の「教育学基礎演習」などを通して、教育学の基礎的な考え方や方法論をじっくりと学びます。

2 年次 専門科目を履修し自らの方向性を定める



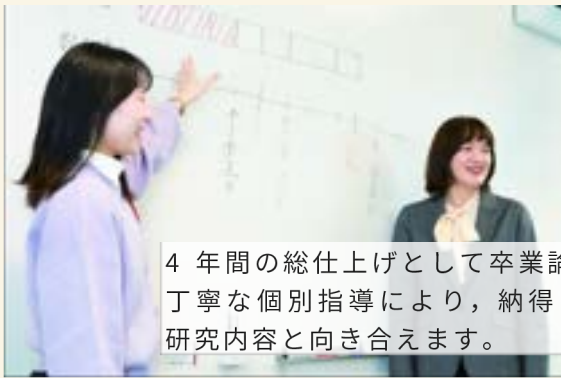
1 年次で習得した基礎力を土台にして、学科専門科目を履修。各自の学びの方向性を定めていきます。

3 年次 関心のある専門分野をゼミで深める



研究室（ゼミ）に所属し、自分の関心の高い専門分野を深めます。教職課程では、学校での実習が始まります。

4 年次 専門性を究めて卒業論文を執筆する



4 年間の総仕上げとして卒業論文を執筆。丁寧な個別指導により、納得のいくまで研究内容と向き合えます。



私の一週間

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
7:00		朝練			朝練		
9:00	アルバイト	授業	授業	犬の散歩	授業	犬の散歩	部活動
11:00				自主練			
13:00				部活動		部活動	部員とごはん
15:00							ジム
17:00	自主練						
19:00					友人とごはん	部員とごはん	
21:00	資格勉強	予習復習	予習復習	資格勉強	復習		資格勉強
23:00	予習					映画鑑賞	



——授業と部活を両立しながら 教師になるための学びを深める 教育学科3年 宮崎 かな

将来教師として活躍できるように、授業や実習に取り組んでいます。特に子どもたちにどのように教えるかを学ぶことに興味があり、実践方法について深く考えています。将来は、子どもたちの成長をサポートできる教師になりたいという目標があるため、そのために必要な知識やスキルを学んでいます。

部活動（ラクロス）では、チームの一員として日々練習を重ねています。試合に向けての練習は大変ですが、仲間と一緒に努力することで、団結力や自分自身の成長を感じることができ、とても充実しています。特に、練習の中で戦術を学び、実践に生かすことが面白く、もっと上達したいという気持ちが強くなっています。

両立は大変ですが、どちらも自分にとって大切なことなので、時間をうまく活用して頑張っています。部活動で培ったチームワークや集中力は、教育学科の学びにも役立っています。



教育学科で受けられる多様な授業



女性教育史論

明治期以降の学校教育や社会教育における女子教育の目的・内容・思想等を通して、社会や家庭における女性の位置づけや役割、国家との関わりについて学びます。

学習支援の心理学

どのように教えると、つまりどのようきき解消し深い理解を促せるか、また自ら学ぶ学習者へ導けるか、具体的な事例をもとに教育認知心理学の視点から討論し考えを深めます。

生涯学習論 I

生涯学習とは、生涯を充実させていく学びを指します。この授業では、私たちが学ぶ場や方法の多様性と、学びが私たちの生活や社会にもたらす意味について考えます。

教育哲学

「教える、学ぶってなに?」「教師になるってどういうこと?」「こうした一見自明なことがらを問いなおし、その意味の深みへと向かうとともに、考え方や思考力を身につけます。

ICT教育演習

小学校で多く活用されているビジュアルプログラミングを体験しながら「プログラミング的思考」の育成について学びます。

国語科概論

国語科教育の意義について理解を深めるとともに、学習指導要領を読み解きながら、国語科における「主体的・対話的で深い学び」について、実践的に学びます。

教職基礎論

教職の意義、教員の役割・必要な資質能力・職務内容など教職全般について、個人検討やグループ協議等を通して学び、理解を深めながら教職の魅力を感じ取っていきます。

特別活動・総合的な学習の時間の指導法

児童、生徒として打ち込んできた学級活動や児童（生徒）会活動、学校行事、クラブ活動、探究的な学習について指導法を考えていきます。

教育行政学

教育行政の役割の一つは資源（ヒト、モノ、カネ）の配分です。その際には、平等性、公平性、効率性が問われます。講義ではこの問題を議論を通じて考えます。

音楽科概論

人間と音との自然な関係を再考しながら色々な音楽活動を展開します。最終的には音楽創作を行い、小学校教員に必要な音楽的技能と知識の習得を図ります。

基礎演習

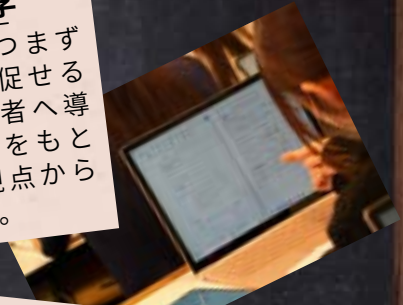
1年生と2年生の間に4つの基礎演習が設置されています。大学での勉強の仕方の初歩から、卒業論文に向けた研究の仕方まで、少人数の演習形式で学びます。

教育学演習（ゼミ）

卒業論文の執筆に向け、担当の先生のもとで、3年生から2年間かけて少人数のグループで専門的に学びます。ゼミ合宿などの楽しい行事を行うこともあります。

人間形成の社会学

年老いるまで成長し、変化し続ける「人間形成のプロセス」には、どのような日本的な特徴や問題があるのか、諸外国との比較も交えながらアクティブに考える授業です。

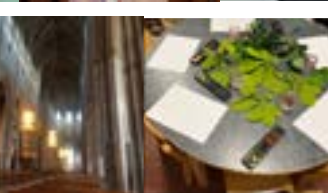
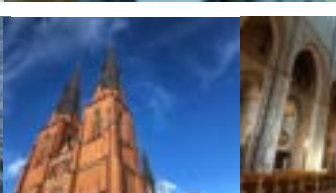


教育学科から 世界とつながる



異文化相互理解実地研究

6泊8日でフエ・ホイアン・ホーチミンを訪問します。フエ・ホイアンでは、フエ大学で日本語を学んでいる学生さんとの交流に加え、小中学校を訪問して子どもたちとの交流を行います。ホーチミンでは、孤児院や障がい者施設での交流を通して貧困や格差について考えたり、ベトナム戦争に関わる施設を訪問し紛争や平和について考えたりする機会ももちます。



スウェーデン海外短期研修

教育、保育、環境の先進国である、北欧スウェーデンを訪ねます。北欧最古の大学であり、本学の協定大学でもあるウプサラ大学では、最先端の研究や設備に触れ、現地学生との交流を行います。保育園（就学前学校）、小学校・中学校（基礎学校）では、一人一人の学びを大切にする教育を視察します。市役所では、環境に配慮した施策についての話を伺います。



教育学科の先生たち



齋藤 慶子 教授

専門は日本の近現代の女子教育・家庭教育。現代の教員も抱える「仕事と家庭のバランス」という、男女共通の課題を歴史的に検討している。



瀬尾 美紀子 教授

理解や思考を中心に、子どもの学習のメカニズムについて研究している。また学習を支えるメタ認知、動機づけ、学習観、学習方略にも着目し検討している。



藤田 武志 教授

社会や子どもの実態を社会的に探究しながら、すべての子どもが社会的な自己実現に向けた能力を身につけられるような教育のあり方を検討している。



山下 絢 教授

教育政策実施のプロセスにおける決定メカニズムの解明と、教育政策がどのような効果をもたらしているのかという教育政策の評価を専門とする。



土上 智子 特任教授

専門は、国語科、書写・書道教育。文字を書くことはすべての学習の基礎。「主体的・対話的で深い学び」の実践から、国語力、書写力の向上をめざし、研究を進めている。



榎本 聡 准教授

専門は教育工学／教育情報ネットワーク。ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現や、デジタル教科書・教材の活用など、主に学校教育におけるICTの活用について研究を進めている。



桑嶋 晋平 准教授

専門は、教育哲学・教育思想史。教師・学習者にとって「誠実」とはなにか、「誠実」概念が近現代日本の教育にいかなる影響をおよぼしてきたのかについて研究を進めている。



砂田 大樹 助教

専門は数学教育学。算数・数学教育の歴史について、戦時期の算数・数学教育の特徴を、教科書や史料を基に研究している。



清水 睦美 教授

在日外国人の子どもたちと日本の学校・教師・社会との関係、親や母国との関係などについてフィールドワークの手法を用いて検討している。



田部 俊充 教授

アメリカ、ヨーロッパの地理的な現地調査や学説史を中心に研究を進めている。また、魅力的な幼稚園から高等学校までの社会科授業を目指して特にアナログ&デジタル&プログラミング地図を使った授業づくりや教材開発を進めている。



丸林 実千代 教授

学校の音楽教育も含め、すべての人々のあらゆる次元での自由な音楽活動の権利保障を基本とする生涯音楽学習について研究している。



久保寺 浩 特任教授

専門は教育経営学。算数・数学科教育を担当。学校生活に困難を抱える児童生徒の学びを支える学校経営の在り方や教員・学校管理職の人材育成を研究している。



松尾 廣文 特任教授

道徳性発達や社会的視点取得能力、道徳教材開発を研究している。道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間を担当している。



荻野 亮吾 准教授

地域づくりに関わる学びの構造や、地域の社会関係が築かれる過程を研究。地域の学びや実践を支える仕組みや組織に関心を持つ。



伍 翔南 助教

専門は教育哲学、アート教育。アルゴリズム時代と言われる今日において、「教育とは何か」、「教育はどうあるべきか」を問い続け、学校の美術教育を含めた芸術教育のあり方をテーマとして研究している。

教員インタビュー

教育哲学・教育思想史 桑嶋 晋平 准教授

ひとびとは教育についてどのように
かんがえてきたのだろう？



Q 先生の専門分野はどのようなものでしょうか？

A わたしは、教育哲学、教育思想史を専門としています。教育ってなんだろう、よい教育ってどういう教育なんだろう、あるいは、教育に関連してつかわれるいろいろな概念やことばがどんなふうになって、どんなふうにつかわれているのか、といった問いを哲学の方法を用いてかんがえたり、ひとびと——わたしの場合、主に近現代日本の思想家ですが——がそうした問いをどんなふうにかんがえ、こたえようとしてきたのか、といったことを明らかにする、そんな研究分野です。

Q 先生自身はどんなことを研究しているんですか？

A 最近、近現代日本の教育、とくに教師たちにとって「誠実さ」とはなんだったのか、ということの研究をしています。伝統的に、日本の教師は、たんに知識や技能を教えるだけでなく、子どもの背景にあるもの、たとえばどんな生活を送っているか、家庭はどんな状況なのか、そうしたことに目配りしながら、誠実に・献身的に子どもにかかわってきたように思います。それは教師のやりがいにもつながっていますが、他方で、近年とりあげられている教師の多忙化のひとつの要因でもあるように思います。働く環境をよくしていくために、たとえば教師の数を増やして学級規模を小さくしたり、授業時数を減らすなどももちろん必要ですが、同時に、教師の文化や心性として根付いている誠実さとか献身さがどんなもので、どういうふうにつくられてきたのかをかんがえないといけない、とも思っています。誠実さや献身さが大事だ、というのは、よくよくみると、さまざまな思想家や教育学者、教師といったひとびとが語っています。どんな理屈で、どんなふうにそれを語っていたのかを、文献や史料をたどりながら明らかにしていく、というのが近年関心をもって研究していることです。

Q 以前授業中に、先生は研究が楽しいということをいってました。どんなところに楽しさを感じていますか？

A わたしは文献や史料を読み込んで論文を書いていく古風な研究者なのですが、ひとつは、点と点が線でつながっていくことの楽しさ、というのがあります。「なんだかよくわからないことをいっているなあ」と思っていたことが、文献や史料を読み込んでいくと、「そうか、こういう背景があってこんなこといっているんだ」とつながっていくのが楽しいなあ、と思っています。それから、文献や史料を読むというのは、もちろん書いてある内容をきちんと理解しようということなのですが、同時に、中身がわかってくることで自分自身の考えが深まっていく、というのもあるんですね。人間がひとりでかんがえられることはそう多くありませんし、ひとりで考えていて悶々としてしまうこともすくなくありませんが、文献や史料には伴走者のような一面もあって、自分とは異なる考えをもたらせてくれるとともに、一緒にかんがえてくれる。そうして自分自身の考えが深まったり、世界が広がったりしていくのは、とても楽しいことだなあ、と思っています。

Q 最後に、受験生や学生にむけてなにか一言いただければ。

A なにかとわかりやすさが大事だといわれる世の中ですが、他方で、「よくわからないけれどなにか気になる」みたいなものって大事だと思っています。「これはなんだろう」「よくわからないけど気になる」という不思議さや驚きを大事にしていってもらえたらよいなと思いますし、それがあれば、学びってとても楽しいものになるんじゃないかな、と思います。

教育学を学ぶ・研究する

教育学科では、様々な分野の先生のもとで教育学を学び、教育に関する専門的な知識や技能を身に付けることができます。1年次、2年次には教育学の研究法を学び、3年次からはゼミに所属し演習を通して学びを深めます。そして4年次には自分自身で課題を設定して研究を行い、卒業論文を執筆します。

また、大学院では、より高度で専門的な知識を得たり、自分の関心を深めたりすることができます。

卒業論文（抜粋）

- ・ フォルマシオン・ミュージカルを根拠としたポピュラー音楽の教材化——子どもの音楽嗜好に合わせたアプローチ——
- ・ 千葉県佐倉市を題材にしたふるさと教育——小学校における授業提案——
- ・ 現代における大学進学の意味と社会的影響
- ・ 若手教員の働きやすい職場とは——学校組織内の要因に焦点を当てて——
- ・ 障がい者を同胞にもつ『きょうだい』が抱く感情の変容と自己受容のプロセス——「きょうだい」へのインタビュー調査を通して——
- ・ 進学校における失敗活用志向を育む授業改善への手立て——生徒の発言場面に焦点を当てて——
- ・ 身体的・精神的不調につながる授業形態に関する一考察
- ・ 脱資本主義の思想としての地方移住の可能性を考える——教育観や子育てに対する考え方に焦点を当てて——
- ・ 学校の福祉的機能をめぐる包摂と排除についての考察——高知県福祉教員たちの実践に基づいて——
- ・ 柔軟で創造的な教育空間を実現する学校の在り方

修士論文（抜粋）

- ・ 夫の家事・育児遂行と妻の満足度の関連
- ・ 今後の教職課程に求められる姿の一提案——教師を志す学生の語り——
- ・ 中国人留学生は留学経験をどのように活かしてキャリアを選択するのか
- ・ 主体としての子どもがあらわれる時——佐々木昂の生活綴方論と三木清哲学との思想的つながりから——
- ・ 近代家族の母娘関係に関する一考察——母はなぜ「娘」を手放せないのか——



——学部、大学院での学びと研究

人間社会研究科 教育学専攻
博士課程後期 内橋 舞子



高校生の時に、学校における教育の諸問題を広く学びたいと思い日本女子大学の教育学科に進学しました。研究テーマは、「理解に対する考え方の個人差が学習行動に与える影響」です。きっかけは、アルバイトをしている学習塾で、生徒の「わかった」という言葉に疑問を持ったことです。生徒と話したり観察したりしてみると、ある生徒は習ったことを自分の言葉で説明できることを理解と捉えている一方で、穴埋めの問題が解ければ理解したと考える生徒がいることに気づきました。また、前者の生徒の方が、自分の理解状態を正確に把握し、それを活かして学習を行なっているのではないかと考えました。

この理解に対する考え方の個人差を実証的に調べてみたいと思い、卒業論文では中学生 700 人にアンケート調査を行いました。分析を行なったところ、想定通り、自分の言葉で説明したり「なぜ？」といった意味理解ができれば理解したと考える「深い理解観」と、勉強の量をこなしたり問題が解けたりすることができれば理解したと考える「浅い理解観」の2つにまとまりました。また、「深い理解観」を重視している生徒は、自分の理解状態を正確に評価していることがわかりました。その後、博士課程前期、そして博士課程後期へと進学し、研究を続けています。

研究を形にしていくときには困難に直面することもあります。自らの経験に基づき立てた問いをデータで明らかにすること、その過程で様々なバックグラウンドを持った人と関われることに楽しさややりがいを感じています。



教師になる——教職課程の学び

教育学科では、1年次からはじまる学校インターンシップや、各授業での授業づくりや模擬授業、そして3年次、4年次での教育実習と、教師としての専門性を高め、教職に就くための豊富なカリキュラムを用意しています。

教職課程の4年間（小学校教諭）

1年次

● **教職の基礎を学ぶ・学校インターンシップで学校現場を体験する**

教職基礎論や教育心理学などの科目で教職の基礎を学ぶとともに、学校インターンシップで学校現場に赴き、学校でのしごとや子どもの理解、支援について実践的に学びます。

2年次

● **指導法の授業で授業づくりや模擬授業を学ぶ・学校インターンシップで学校現場を体験する**

教科教育法の授業で、授業づくりや学校での指導のしかたについて学んだり、模擬授業を通して実践的な力を培ったりします。2年次も、引き続き学校インターンシップで学校現場での実践的な学びを行います。

3年次

● **教育実習で実践的な力を身につける**

3年次は、3週間の教育実習を通して、教師としての実践的な力を身につけます。教育実習に向けた事前指導では、実習で必要になることがらを学び、よりよい経験となるように準備を行います。

4年次

● **教育実習で実践的な力を身につける・4年間の学びをふりかえる**

4年次は、2週間の教育実習を通して、教師としての専門性を高め、実践的な力を身につけます。また、教職実践演習では4年間の教職課程の学びをふりかえます。



教育学科で取得可能な教員免許

教育学科では、次のいずれかの免許を取得することができます。

小学校教諭

小学校教諭と中学校教諭（社会）

中学校教諭（社会）と高等学校教諭（公民）

教員採用試験合格率

2024 年度公立小学校の合格率は93.3% です
(2024 年度全国小学校教員採用試験合格率 46.3%)

自治体	受験数	合格数
東京都	18	18
埼玉県	6	6
さいたま市	5	3
千葉県	4	4
神奈川県	4	4
横浜市	1	1
川崎市	4	4
相模原市	2	1
静岡県	1	1
計	45	42

——教職課程での学び 教育学科 4 年 若葉 実珠々

教育学科の魅力は、教員養成のための実践的な学びだけでなく、人間や社会について深く理解し、生涯にわたる人間の成長・発達形成の仕組みを学べることです。

1 年生から学校インターンシップに参加できるのは、本当に貴重な経験でした。教員という仕事を現場で早くから体感することで、大学での学びがより具体的になり、自分が本当に子どもが好きで子供と関わる仕事をしたいということも再確認できました。このように早い段階から教育現場に触れることで、実習までに十分な経験を積み、自分の適性や興味を確かめられるのは、他にはない強みだと感じています。

授業は少人数制で行われ、グループワークも多いため、自然と仲間との絆も深まり多様な価値観に触れることで自分の視野も広がりました。特に模擬授業では、クラスメイトからの的確なフィードバックが得られ、授業づくりの力が確実に向上していきます。

教育実習が 2 回あることも大きな特徴です。1 回目の実習での反省や学びを 2 回目活かせるため、段階的に実践力を高められます。私自身、2 回目の実習では 1 回目よりも余裕を持って子どもたちと向き合うことができ、成長を実感しました。

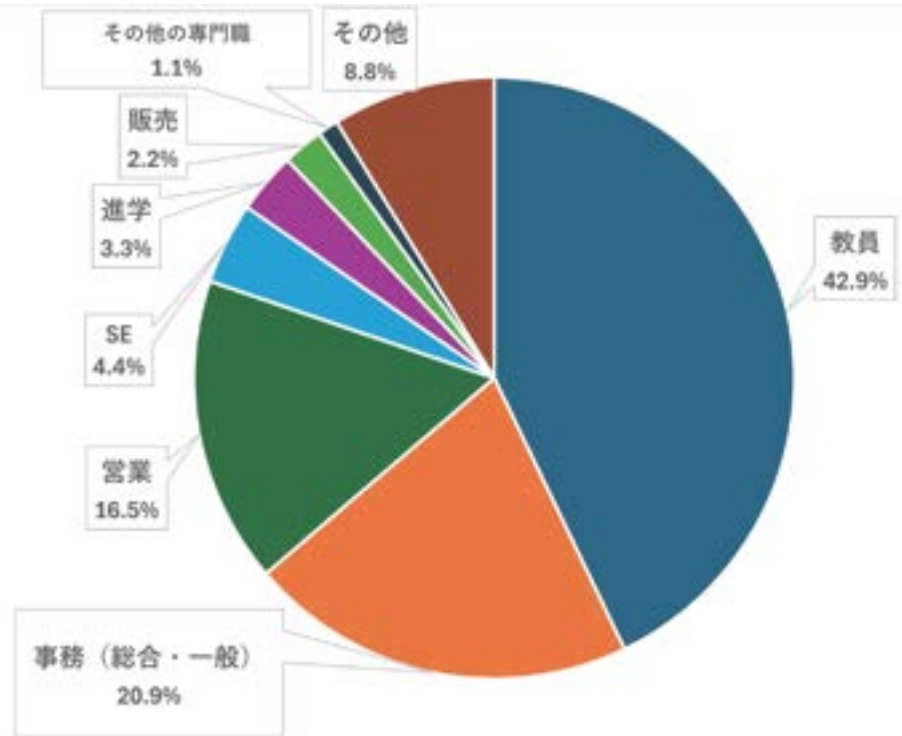
また、3 年生からは専門性を深めるゼミに所属します。様々な専門分野の先生方がいるので、自分の興味に合った研究ができます。時には大変なこともありますが、ゼミ合宿などの行事はかけがえのない思い出となっています。

教員としての道だけでなく、人間理解を基盤としたどんな進路にも活かせる貴重な財産となりました。教育という視点から人間の成長と社会を学ぶことで、どんな道に進むにしても大切な、一生の財産となる知識と感性を身につけることができた実感しています。



卒業後の進路

2025 年 3 月卒業（91 名）



塩谷 奏実 さん

2023 年度卒業

日清製粉ウェルナ

本学科の1番の魅力は、少人数制なところなんです。大学1,2年では好きな授業を履修し、自分の興味のある分野を模索した後、3,4年ではゼミに所属します。少人数のゼミで、教授との距離が近かったため、私は勉強や就職の悩みについてよく相談に乗っていただいていたんです。現在私は日清製粉ウェルナのロジスティクス部に所属し、製品の需給を管理しています。毎日変化する販売状況や製品在庫を踏まえ、製品の製造数量を調整し、工場へ依頼する部署です。大学では苦手な分野をあえて履修したことで、自分の逃げ癖を克服し、当時は嫌いだった数字と向き合う仕事をしています。私は一般就職する道を選びましたが、当初は教員になるつもりで入学しました。教育学科だからと教員になる道だけに縛られることなく、興味のある授業を履修する中で「将来何をしたいのか」考えながら、自分の道を決められたので、教育学科で学べてとても良かったなと感じています。皆さんも、親身に寄り添ってくれる教授たちがいる教育学科で、ぜひ実りのある4年間を過ごしていただきたいです。

主な就職・進学先一覧

就職

教員 浦和ルーテル学院小学校／神奈川県公立小学校／川崎市公立小学校／埼玉県公立特別支援学校／さいたま市公立小学校／相模原市公立小学校／静岡県公立小学校／千葉県公立小学校／東京都公立小学校／東京都公立特別支援学校／横浜市公立小学校

事務（総合・一般職） 旭市／川崎市／埼玉県／佐倉市／東京・特別区／平塚市／ジェーシービー／みずほフィナンシャルグループ／オープンハウス／伊藤忠建材株式会社

営業 内田洋行／近畿日本ツーリスト／総合警備保障／明治安田生命

SE エレマテック株式会社

進学

日本女子大学大学院／埼玉大学大学院／東京学芸大学大学院

取得可能な資格

小学校教諭一種免許状

中学校教諭一種免許状（社会）

高等学校教諭一種免許状（公民）

学校図書館司書教諭

社会教育主事（社会教育士）

司書

博物館学芸員

児童指導員

児童福祉司

日本語教員養成講座

社会調査士

社会福祉主事



榎 佑奈 さん
2018 年度卒業

杉並区立社会教育センター

「教育」ときくと、学校教育や子どもたちの学びをイメージする方が、もしかしたら多いかもしれません。それももちろんですが、私は教育学科で「いつでも・誰でも・どこでも学べること」を探究し、その魅力を知ることができました。私は卒業後、公民館でのキャリアを経て、現在は社会教育センターという施設に勤務し、専門職である社会教育主事として仕事をしています。子どもが対象となる事業もありますが、大人の学びの場をつくることが多く、講座の企画・運営や、地域で活動している人・団体が交流や情報交換をできる機会も考えています。具体的には、これまで地域とのかかわりがなかった方が「なにかやってみよう！」と思ったときに、はじめの一步を踏み出せるようなきっかけをつくったり地域の魅力や特徴を知ったりできる講座、地域での活動をしている方々がお互いの実践を持ち寄って聴き合うワークショップなどをおこなっています。

教育学科での学びを振り返ると、大きく3つのことが現在の仕事にもつながっているように思います。

1つ目は、教育分野を多様な視点から学んだことです。もともと興味があった社会教育・生涯学習分野だけでなく、学校教育について、また社会学や多文化共生などの分野にも触れました。人々が抱く想いや地域がもつ課題は多様です。それらを引き出し、どのように結びつけて、展開していくかを考えるためには、あらゆる立場の考え方や在り方を知る必要があると感じています。

2つ目は、講義だけでなく、さまざまなグループワークや、施設等へのフィールドワーク・実習の機会があったことです。座学で得た知識がリアルなものとしてイメージできたからこそ、現在の仕事もより魅力的に見えましたし、今でも実習先の方々から教わった言葉を思い出すことがあります。

3つ目は、社会教育・生涯学習分野の学びを深めたゼミでの研究は、とても意味のあることでした。卒業論文を執筆するにあたり自分の決めたテーマを深く掘り下げるため、教授やゼミ生と繰り返し議論をしたり、インタビュー調査をおこなったりしました。専門知識はもちろんのこと、物事を多面的に捉える力や他者から聞き取ったことを分析する力は、今の仕事にも活かされています。多様な知識や価値観に触れたことで、学校や家庭以外にも学びの場があること、自分がこれまでに経験したことは社会教育だったという気づきが、私のいまにつながっています。ぜひみなさんも日本女子大学の教育学科で、自分の興味関心を存分に探究してみてください。



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY